

木々の葉は落ち始め、10月中旬から急激に気温が下がり、秋の訪れを感じることなく冬になるのではないかと思うほど寒くなった。毎日晴れの日が続いているが、天気予報の最低気温は一桁(単位: )を予報することもしばしばである。このような天候の中、体調を崩すことなく、毎日の生活を送っている。本報告書は、現在の生活の様子を中心にまとめるほか、最近感じたことを報告する。

### ルームメイトとの生活

8月半ばから、イリノイ大学(UIUC)での本格的な授業と同時に、私にとって初めての生活が始まった。それがルームメイトとの生活だ。部屋は大学敷地内にある、主に大学院生などが利用する寮の一部屋を二人で利用している。部屋の生活に関しは何も不自由することはない。最低限の家具と冷蔵庫や電子レンジなどがそろっている。シャワーとトイレは各部屋に備わっている。

人生の中で、一週間のような短い期間の共同生活を除き、家族以外の人と長期間生活を共にしたことがないため、ルームメイトとの生活は、当初不安と共にお互い気を遣う日々であった。さすがに三月も経とうとする今では、お互いに自分のリズムで生活するようになり、はじめのような心配はなくなってきた。私のルームメイトは、私が夏の間に通っていた語学学校(IEI)の生徒で、台湾出身である。私よりも数段に英語ができるので、時々宿題のスペルや文法のミスを確認してもらっている。彼は日本好きで、よく日本のJ-POPを聴くほか、日本のドラマなども見ている。そのため部屋の中では日本語が流れていることがしばしばあり、複雑な気分だ。日本語を話すことはできないが、ドラマの影響で、かなり理解できるようになってきたと言っている。

そんな彼との生活の中で、時としてプライバシーについて考えることがある。部屋の間取りの問題から、どうしてもお互いの領域に入ることが日常である。私はあまり干渉しないようにしているのだが、彼は私の行動が時々気になるようだ。私が特に気にしていることが、彼の寝ている時間に勉強しなければならないことだ。はじめのうちはよかったのだが、学期が半ばにさしかかった頃から、宿題、授業内容、プロジェクト活動など多くのことを片づけるのにどうしても夜遅くになってしまうことが多くなってきた。彼は気にしないで良いと言ってくれるのだが、時に毎日ともなると気を遣わないわけにはいかない。そんな時は、必要な荷物をまとめて部屋を出て、寮内の各階に備わっている自由に使用できる部屋を利用するようにしている。

### 授業とプロジェクト活動

私の授業スケジュールは、月、水、金曜日のみの授業となっており、隔週の火曜日早朝に実験の時間が入っており、ほぼ一日おきとなっている。しかし授業自体はないものの、のんびり休むことはあまりできない。私の履修科目のほぼ全てにグループ活動がある。そのため授業のない日はグループで集まって簡単な打ち合わせなどを行うことが多い。授業の多くの教員は生徒に対し、どれほど理解しているかを確認することが多いと感じた。そのため、毎週、宿題の提出やQuiz(小テスト)がある。授業中も質問を投げかけることが多く、生徒もそれに積極的に答えている。これは日本の授業雰囲気と大きく違うところだろう。それ以外にも、オフィスアワーなどを利用して、授業で分からなかったことを補うことも行っている。オフィスアワーを利用することは、こちらの学生にとっては当然のようである。金沢工業大学でもオフィスアワーの時間を設けて、積極的に学生の理解を図っているが、学生の参加数は比にならない。さらに教員である教授以外にもTAを担当している学生も、時に授業の枠を超えた内容まで対応してくれることもあり、大変良い環境であると感じた。

私もできる限り積極的に行動しようと心掛けているのだが、やはりグループメンバーを始め教員との英語でのコミュニケーションには大変苦労している。グループ内の会話では、ほとんど参加できないのが現象である。次から次に発言が多いことや、私が聞きとる速度に対して、数段早く発言されるため、ついていけずにアップアップしている状態である。

### 英語に対する感覚の変化

これまで日本の英語教育を10年以上受けてきたが、私は英語が大苦手であった。そんな私が留学を決意したのだから大変なことであり、こちらでの生活に支障が出ることは容易に想像できた。現にこちらの生活が落ち着くまで、多くのトラブルがあった。今学期が始まった当初は、IEIでの英語に比べ、会話や授業の早さに圧倒していた。先に述べたとおり、授業やプロジェクト活動を行う上で、英語によるコミュニケーションは大変重要である。私はこちらで毎日のように英語に触れるようになって、英語に対しての考え方が変わった。それは英語をイメージでとらえるようになったことだ。会話をしている中で英語を毎回日本語に直していたら間に合わない。特にプロジェクトメンバーの間では、沈黙やあいまいな返事などは信用を失うことがある。以前は会話中も、頭のどこかで日本語訳を行い、自分の考えを日本語から英語に直して発言していた。今でも発言する時はうまくいかないが、できる限り英語を英語のまま理解するようにしている。相手の話している内容をイメージでとらえることは時として間違った内容で認識してしまうことがあるが、内容を100%理解することは理想だが、それはなかなか難しい。それよりも自分の考えを発言し、自分に伝わっていることを伝えることの方が、さらに重要であると感じたからだ。仮に間違っていて、間違っていて伝わっていると相手を感じてくれた時、それは違うと相手は言うてくれる。それよりも何も言わずに、わかったふりをするの方が、どれだけ危険かを感じるようになった。また、あいまいな表現や中途半端な返答はしないように心掛け、わからない時ははっきりとわからないと答えるようにしている。しかし語彙の少なさや、文法をうまく使えないため、Try and errorの繰り返しである。

### レポート作成とPlagiarism(盗作)

ESL113の授業以外に私はTutorとの英語の勉強時間があり、合計6回が予定されている。先日、私の専門内容を英語にまとめたものを添削してもらった。その時言われたことが、このレポートはどのように作成したのかということだった。私の実力に対して文章ができすぎていると思われたようでPlagiarism(盗作)ではないかと疑われてしまった。そこでどのようにレポートをまとめたのかを説明した。こちらではこのようなPlagiarismなどに対しては、大変厳しいと聞いていた。ESL113の授業でも、Plagiarismについて取り上げる時間があった。日本でもこの内容には厳しくなっている。

先に述べた会話の問題と同様に、ここでも言えることなのだが、特にレポート作成時は、私がどのような過程を踏んで、この考えになったのかを説明するという意味で必要なのではないかと感じた。会話中は、お互いに過程を踏んできているため、相手のことがわかるのだが、レポートは書き手が一方的に意見を述べるため、過程を理解することは困難である。私はPlagiarismをしたつもりはなかったのだが、現に教科書や参考書などの文章を引用し、その注釈が抜けていたので、疑われても仕方がないことであった。このようなことが起きないように今後は気をつけていきたいが、こちらの学生は、学生間で自分のレポートを見せあい、確認し合っているということを聞いた。確かに提出前に他者に確認してもらうことは重要であり、気づかない間違いを見つけるステップとしてはとても良いと思う。

今回の報告では私の活動や感じたことを簡単にまとめた。これまでとは違った生活を送っていることや英語に対する考え方の変化は、私にとって大きな影響を与えている。留学という機会は、自分自身を時に主観的に、または客観的に見ることができるとてもいい機会である。またこちらの生活に慣れたことで、自分に余裕が持てるようになったからこそ、このようなことがいえると思う。残りの数カ月で自分がどのように成長できるか、自分と対話しながら成長していきたい。